

## 12 セクシュアリティは人それぞれ! ~LGBTQ(※1)について考えよう~

その人自身の性のあり様のことを「セクシュアリティ」といいます。

セクシュアリティとは、人間一人ひとりの人格に不可欠な要素の集まりです。その要素には、「心の性：自分自身の性別をどう認識しているか」「身体の性：生まれもった身体の性のこと」「好きになる性：恋愛や性愛の対象となる人の性」「性別表現：服装や性格、趣味や振る舞い方など」の4つがあります。これらの性は「男性」と「女性」と2つに分けて考えがちですが、現実には明確に「男性」と「女性」の2つに分けることができないものです。「心の性」「好きになる性」「性別表現」については「男性」「女性」だけでなく「両方」「どちらでもない」などということがあります。セクシュアリティは多様で、グラデーション(※2)のようなもの、一人ひとり異なるものです。

※1 LGBTQ：レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クエスチョニングの頭文字をとった表現。

※2 グラデーション：色彩や濃淡が連続的に変化していく状態のもので、明確な境界がない状態を表す。

### ワーク 1

次のセクシュアリティの構成要素の図で、自分の性がそれぞれの要素のどの辺りにあるのかをイメージしてみましょう。(記入はしません。)

セクシュアリティの構成要素

心の性：	<input checked="" type="checkbox"/> 男	<input checked="" type="checkbox"/> 女
身体の性：	<input type="checkbox"/> 男	<input type="checkbox"/> 女
好きになる性：	<input checked="" type="checkbox"/> 男	<input checked="" type="checkbox"/> 女
性別表現：	<input checked="" type="checkbox"/> 男	<input checked="" type="checkbox"/> 女

セクシュアリティを10代の頃にはっきり自覚する人もいますが、迷ったり揺れたりする人もたくさんいます。この時期にセクシュアリティについて、気持ちや感覚が揺れることはおかしいことではありません。すぐに決めつけずに、時間をかけてゆっくり考えていきましょう。

セクシュアリティは変化したり揺れ動いたりすることもあります。その人自身や周囲が無理に別の方向に変えようと思っても変えられるものではありません。自分自身のあり方をゆっくり見つけていけばよいのです。

「LGBTQを知っていますか？ “みんなと違う”は“ヘン”じゃない」 監著 日高庸晴 著者 星野慎二ほか  
少年写真新聞社(平成27年12月)

### ワーク 2

セクシュアリティのあり方は様々です。自分自身のセクシュアリティについて違和感や不安がある人は、日本では人口の何%くらいにあたるのかを考えて○をつけましょう。

- ① 0.9%      ② 1.9%      ③ 3.8%      ④ 8.9%      ⑤ 15.2%

## ワーク 3

次のようなセクシュアリティに合う説明を下の①～⑤の中から選びましょう。

<p>心の性： <input checked="" type="radio"/> 男 <input type="radio"/> 女</p> <p>好きになる性： <input checked="" type="radio"/> 男 <input type="radio"/> 女</p> <p><input type="text" value="ゲイ"/> <input type="text" value="説明："/></p>	<p>心の性： <input type="radio"/> 男 <input checked="" type="radio"/> 女</p> <p>好きになる性： <input type="radio"/> 男 <input checked="" type="radio"/> 女</p> <p><input type="text" value="レズビアン"/> <input type="text" value="説明："/></p>
<p>心の性： <input type="radio"/> 男 <input checked="" type="radio"/> 女</p> <p>好きになる性： <input checked="" type="radio"/> 男 <input type="radio"/> 女</p> <p><input type="text" value="バイセクシュアル"/> <input type="text" value="説明："/></p>	<p>心の性： <input type="radio"/> 男 <input checked="" type="radio"/> 女</p> <p>身体の性： <input checked="" type="radio"/> 男 <input type="radio"/> 女</p> <p><input type="text" value="トランスジェンダー"/> <input type="text" value="説明："/></p>
<p>心の性： <input type="radio"/> 男 <input type="radio"/> ? <input type="radio"/> 女</p> <p>身体の性： <input type="radio"/> 男 <input checked="" type="radio"/> 女</p> <p>好きになる性： <input type="radio"/> 男 <input type="radio"/> ? <input type="radio"/> 女</p> <p><input type="text" value="クエスチョニング"/> <input type="text" value="説明："/></p>	

①生まれもった身体の性に違和感がある。(身体の性は男性だが、自身の性別認識は女性。)	②男性・女性の両性を恋愛対象とする。(心の性は女性だが、男性女性の両方が恋愛対象。)	③自分の心の性がよくわからなかったり、どの性別が好きなのか迷ったりしている状態。
④男性を恋愛対象としたり、男性に性的魅力を感じたりする男性。(心の性は男性、恋愛対象も男性。)	⑤女性を恋愛対象としたり、女性に性的魅力を感じたりする女性。(心の性は女性、恋愛対象も女性。)	

## ワーク 4

次の文章は、当時高校1年生だったハルキさんの話です。「戸籍と身体は女、心は男です」と自己紹介してくれたハルキさんの話を読み、(1)～(4)の問いに答えましょう。

### —自分の性別に違和感を感じたきっかけは？

中学校の制服です。女子用の制服を着なければならないということにすごく抵抗を感じて、毎朝20～30分もかけて着ていました。

そんな状態でどうにか1年間は通ったものの、2年になったときに（制服を着ようとする）吐くようになってしまって、学校に行けなくなりました。

### —学校を休むようになった理由について、家の人と話しましたか？

最初は「友人関係がうまくいなくて」と説明していました。でも母親は、なんとなく「違うな」って気づいていたみたいです。

その後、高校を選ぶタイミングで、カウンセラーの方を交えて母親に※3 カミングアウトしました。

※3 カミングアウト：自分のセクシュアリティを他の人に伝えること

### —お母さんの反応はどうでしたか？

自分はずっと「娘」として親と接していることが、うそをついているような気持ちでつらかった。死にたい気持ちになることもありました。

でも母親は「男でも女でも自分の子どもにかわりはない」と言ってくれました。母親という一番身近な存在に受け入れてもらえたことは、自分に安心感を与えてくれました。

### —お母さん以外の人にカミングアウトをしたことはありますか？

中学の頃のクラスメートに伝えたことがあります。

相手は学校を休んでいた間も遊んだりしていた友人で、卒業式の少し前、自分が学校を休んでいたことにはこういう理由があるんだ、と説明しました。すると彼女は「話してくれてありがとう」と言ってくれたんです。すごくうれしかった。

### —高校生活について教えてください。

制服がないことを第一条件に選び、現在は定時制高校に通っています。

入学が決まったとき、高校の養護教諭の先生と、学年主任の先生と面談をして、トイレの使い方についてや更衣室は保健室を使えるようになるなどを、相談して決めました。定時制高校には外国の方も多いので、入学時に「希望する通称名」という欄があるんです。ここに、戸籍上の名前じゃない、ハルキという名前を書いてOKをもらったのはうれしかったです。

ただ、やっぱり性同一性障害について、知識のある先生がいる反面、ない先生もいるんですよね。知識がある先生は、「なんて呼べばいいかな」って聞いてきてくれたり、皆と違うトイレを使うことについてなにも言いません。変に気を使わず、普通に接してくれます。でも、自分に対して「女の子なんだから」と言ってきたり、自分のことを指して「彼女は～」と言ったりする先生もいます。

クラスメートについてもそうですね。自然に受け入れてくれる人もいれば、いちいち「女なんだから女らしくしろ」って突っかかってくる人もいます。

LGBTQについて「そういう人がいるんだ」ってことを、まず知ってほしいなと思います。

(1) 勇気を出してカミングアウトしたとしても、周囲の反応は様々です。そのときの対応によって相手を勇気づけることもあれば、深く傷つけてしまうこともあります。もし、親しい人にカミングアウトをされたら、あなたはどのように言葉をかけますか。考えてみましょう。

(2) もし、あなたが LGBTQ 当事者だったとしたら、どのような接し方をされたら嫌でしょうか。気持ちを想像して書いてみましょう。

(3) ハルキさんの話にある、「変に気を使わず、普通に接する」とはどういうことだと思いますか。あなたの考えを書いてみましょう。

(4) 様々なセクシュアリティの人が気持ちよく学校生活を送れるようにするためには、どのような工夫が考えられますか。あなたの考えを書いてみましょう。

# 解説12 セクシュアリティは人それぞれ! ~LGBTQについて 考えよう~

## 1 ねらい

2018年の電通ダイバーシティ・ラボの調査(※1)によると、LGBT層に該当する人の割合は人口の8.9%にあたるという結果だった。このことから40人クラスで3人から4人のセクシュアルマイノリティの生徒がいる可能性があると考えられる。別の調査(※2)によると、そのうちの約6割が学校生活において、いじめを経験したことがあると回答したが、教師が「いじめ解決の役に立った」と解答したのはわずか13.6%にとどまっている。自分の親にカミングアウトをしたことがある人の割合もわずか22%となっており、セクシュアルマイノリティ当事者が誰にも打ち明けられずに悩んでいる現状がうかがわれる。

心身ともに日々変化し、様々な悩みを抱えている高校生が「自分のセクシュアリティを見つめ直し」LGBTに加えQ(クエスチョニング)を含めた「多様なセクシュアリティのあり方」を知ることで、様々なセクシュアリティを「個性の1つ」として受け入れることができるような心理的土壌を養いたい。

### ※1 LGBT調査2018

調査時期等：平成30年10月 株式会社電通 電通ダイバーシティ・ラボ  
調査対象：20～59歳の個人60,000人

### ※2 LGBT当事者の意識調査「REACH Online 2016 for Sexual Minorities」

調査時期等：平成28年7月15日～10月31日 宝塚大学看護学部 教授 日高 庸晴  
調査対象：LGBTをはじめとするセクシュアルマイノリティ当事者15,064人

## 2 進め方

展開例 (50分)

学習活動	指導上の留意点
<b>1 ワーク1 (15分)</b> ① リード文を読み、自分のセクシュアリティの4つの側面をイメージする。 ② 説明を聞く。	○ クラスにLGBTQ当事者がいる可能性を考慮して授業を進め、個人でワークに取り組みさせるようにする。 ○ 性別は単純に分けられないことを説明する。その際、生徒が「自分は男性的な側面と女性的な側面の両方をもち合わせている」と感じられるように説明する。
<b>2 ワーク2 (5分)</b> ① セクシュアリティについて違和感や不安がある人の割合を予想する。	○ 正答を伝える際には、40人クラスで3人から4人程度など、生徒がイメージしやすいように伝える。
<b>3 ワーク3 (10分)</b> ① 様々なセクシュアリティに合う説明を①～⑤から選ぶ。	○ 知らない用語を含め、図を参考にしながら考えるよう伝える。

#### 4 ワーク4 (20分)

① ワーク4の教材を読み、(1)～(4)に自分の考えを記入する。

- LGBTQ 当事者にとって、カミングアウトはとても勇気が必要なことであると伝える。実際に親しい人にカミングアウトされたことを想像しながら取り組むよう伝える。
- 日常生活で LGBTQ の人に対して無意識のうちに差別的な言動をしていないか振り返らせる。
- 模範解答があるわけではないと伝え、生徒の素直な意見を引き出すように留意する。

### 3 解説

LGBTQ という言葉の認知度は以前より高くなってきているが、個々の具体的な言葉は知っていても、メディアによって作られたイメージが独り歩きしている様子も見られ、偏見や差別につながっている。人にはそれぞれ個性があり、個人の意思で変えることのできない「自分のあり方」をもっている。「セクシュアリティ」もその1つであり、「セクシュアリティのあり方は一人ひとり異なって当然」であり、個性の一部として相手のセクシュアリティを尊重する姿勢を身につけさせたい。

#### (1) ワーク1について

ワーク1では、セクシュアリティの4つの要素について理解を深めさせたい。また、人は皆「男女の両方の要素をもち合わせている」ことを理解し、単純に男女に分けて性別を考えている現状について考えさせたい。引用文を読み、思春期は内面・外面共に変化が大きい時期であるため、セクシュアリティが定まらないこと、自分のあり方について悩むことは自然なことであると伝える。

なお、クラスに LGBTQ 当事者がいる可能性なども考慮し、個人でワークに取り組み、ワークシートに記入せずに自分のセクシュアリティを頭の中でイメージするように伝える。

〈心の性〉

性自認 (Gender Identity) ともいう。心の性は、自分自身の性別をどう認識しているかというもの。「女性である」「男性である」または、「どちらでもある」「どちらでもない」という感覚で、個人によって最も違いが出てくる場所である。

〈身体の性〉

生まれもった身体の性のことで、外性器や内性器、染色体などで男女の差がみられる。

〈好きになる性〉

性的指向 (Sexual Orientation) ともいう。恋愛や性愛の対象となる人の性。

〈性別表現〉

社会的に期待されている役割 (服装や振る舞い) を性役割 (Gender Role) というが、性別表現は本人が望む役割 (服装や振る舞い) のことで、必ずしも求められる性役割と一致するとは限らない。

「身体の性」について説明する際には、「男性」であっても「女性」であっても、様々な身

体の発達の状態があることを考慮し、次の資料を参照の上、DSDs（ディーエスディーズ）にはふれないこととする。

### 体の性の様々な発達（DSDs : Differences of sex development）について

いわゆる「性分化疾患」（現在ではDSDs「体の性の様々な発達」と呼ばれる）とは、「男でも女でもない性」「男女の区別がつかない人」「両方兼ね備えている」「両性具有」「中間の性」ではなく、「女性にも様々な体がある・男性にも様々な体がある」ということであり、性自認や性的指向の問題との混同や、「男でも女でもない」「中性」という偏見・誤解は、当事者の子ども・家族の大多数を傷つけ、自殺企図を高めるため、学校現場ではDSDsに触れないなど、慎重な対応が必要になります。

「学校や教室でDSDs（体の性の様々な発達：性分化疾患）について触れるには？」  
日本性分化疾患患者家族連合 nexdsd JAPANより

## （２）ワーク２について

正答：8.9% 40人クラスで3人から4人のセクシュアルマイノリティの生徒がいる可能性があると考えられる。

## （３）ワーク３について

ワーク３では、LGBT 以外にも様々なセクシュアリティのあり方があることを学ぶ。それぞれの名称と特徴を正しく学ばせ、偏見や差別につながらないように留意する。

クラスにLGBTQ当事者がいる可能性も考え、個人でワークに取り組ませるようにする。

ゲイ※	説明：④	レズビアン※	説明：⑤
バイセクシュアル	説明：②	トランスジェンダー	説明：①
クエスチョニング	説明：③		

※性的指向を捉える要素は心の性であり、身体の性が女性でも、心の性は男性で、好きになる性が男性という場合があります、FTMゲイと表す場合があります。レズビアンの場合も同様です。

## （４）ワーク４について

LGBTQ 当事者としてのハルキさんの話をとおして、当事者の抱える悩み、社会の偏見、当事者に向けられる差別的な視線・発言などについて考えを深める。特に、カミングアウトをするためには大変な勇気が必要であること、カミングアウトを受けるということは信頼の証であることなどを認識させたい。実際にもしLGBTQの友人がいたとしたらと想像し、相手の気持ちに寄り添えるよう促したい。

本人の了解を得ずに、本人が公にしていらない性的指向や性自認を他の人に伝え、広まってしまうことをアウティングと言う。たとえ本人を思っている行動であっても、本人の了承なく他に伝えることはプライバシーの侵害であり、本人を深く傷つける行為であることを伝える。

### 【解答参考例】

(1) もし、親しい人にカミングアウトをされたら、どのように言葉をかけますか。

大切なことを話してくれてありがとう。 / あなたがあなたであることには変わらないから、これまでと変わらず、私にとって大切な人だよ。 / これまで無意識のうちに傷つけてしまっていたら、ごめんね。 / 私に力になれることがあったら、相談してね。

(2) LGBTQ 当事者だったとしたら、どのような接し方をされたら嫌でしょうか。

「ホモ」や「オカマ」など差別的な発言をされること。セクシュアリティをからかわれること。 / 気持ち悪がられること。 / 男はこうあるべき、女はこうすべきというセクシュアリティのあり方を押しつけられること。 / これまでは気兼ねなく接していたのに、カミングアウトしたとたん、急に避けられたり、過剰に気を遣われたりすること。 / セクシュアリティばかり意識されて、自分の本質を見てもらえないこと。

(3) 「変に気を使わず、普通に接する」とはどういうことだと思いますか。

相手のセクシュアリティを否定せずに配慮しつつも、必要以上に気を遣って特別扱いをせずに、まわりの人に接するのと同じように接すること。 / 病気の人や腫れものに接するようにではなく、普通の会話を楽しみ、普通に付き合うこと。

(4) あらゆるセクシュアリティの人が気持ちよく学校生活を送れるようにするためには、どのような工夫が考えられますか。

男女関係なく使用できるトイレを設置する。 / 個室になっている更衣室を設置する。 / 男女関係なく入りやすい部活動名にする。 / 制服を選べるようにする。 / 呼び方を「~ちゃん」「~くん」ではなく「~さん」にする。 / 通称名を使えるようにする。

### <参考資料>

「LGBTQを知っていますか?“みんなと違う”は“ヘン”じゃない」

監著 日高庸晴 著者 星野慎二ほか 少年写真新聞社 (平成 27 年 12 月)

「性同一性障害をはじめとした性的マイノリティ」

平成28年度 新たな人権課題に対応した指導資料 埼玉県教育局市町村支援部人権教育課 (平成29年 3 月)